道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

JAFのみなさま、ようこそ松本へ！左から内田さん、飯田さん、立岡さん、齋藤さん、森さん。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

「二輪アタッチメントがそろそろ完成します」と聞いたのは、昨年夏の会議でのことでした。ＪＡＦ（一般社団法人日本自動車連盟）がバイクもロードサービスしてくれることになったのは、17年前のこと。バイクの搬送や救援に特化した積載車（多目的車）を導入し、年間7万件にもなる要請に対応していました。それだけでも嬉しいのに、業界初の専用トレーラーができるというのです。「完成したらすぐに取材させて欲しい！」と手をあげたところ、昨年のクリスマスイブにご対面することになりました。けれど一人で拝見するのは勿体ないので、我がライダーズカフェの濃い常連さんに集まってもらってはどうだろうと閃きました。何しろメカに詳しく、人助けが大好き。困っている人がいると仲間で知恵を出し合い、最善の策を見つける天才たちばかりなのです。彼らをもってしてもダメな時があり、2度ほどＪＡＦさんをお呼びしました。その時は大きな四輪用の積載車でしたが、アタッチメントがあれば世界が広がりそう。

当日、雪は免れたものの、朝方マイナス5℃という中、本部からロードサービス部長、技術課長、教習用レッカー車両を操作するロードサービス技術課のお二人、そして広報部長、総勢5名が遠征してきて下さいました。対するカフェ選抜隊は、平日に集まれる15名（私を含む）。バイク屋、旧車レストア屋、ディーラー勤務、溶接工、電気工、大型二種運転手、旅人などで、半数がオンオフレース経験者。中にはＭＸの年間チャンピオンが二人も！当然、全員が軽トラやトランポにバイクを積み降ろす経験が星の数ほどあり、その大変さやコツをそれぞれ熟知している面々。故に「一体どんなものなのかな」と興味津々でした。

手前から大人気だったフロントのスタンド、リアの二輪バケットと連結バー、リアのタイヤ。

ミニラダーを置いてフロントを乗せる。これだけで一応自立。おおよそ1300cc＆500kgまで対応。

アタッチメントは、フロント・連結バー・リアの3つのパーツで出来ていました。まずはレッカー車の後部にフロントを設置し、バイクの前輪を手押しで載せます。固定し、連結をつなぎ、4つの車輪でできたリアをあてがいます。隊員の手でパズルのように組み上がっていくパーツ。所々でレッカーの動力を使ってこのような原理で積載完了するのですが、始まるやいなや、取り囲んでいた面々からの矢のように質問が飛び交います。「このウエスは？（リムを痛めないため）」「なぜフロントと連結バーをボルト等で固定しないの？（↑法律絡み！）」「この素材は？（アルミの中に鉄材）」「このゴムバンドはオリジナル？（ネットで買えます）」。中でもフロントタイヤを受け止めるタイヤスタンドは大人気。手に入るのかとの質問に返ってきた答えは「ＪＡＦオリジナル。今のところ販売は想定していません」。二輪アタッチメントは市販の優れものをうまく流用しており、より安価に仕上げているところに驚きの声が聞かれました。

レッカー操作で持ち上がる後輪に「うわ～」。バイクの動きを損なわない急ブレーキ披露にも「うわ～」

「構想8年、開発・試作費400万円、製作費320台で9000万円超え、凄すぎる。それにしても考え方が素敵でした。安全・安心にレスキューすることが一番。そのための手間隙は構いません！という隊員の方の言葉に感銘。こんな人たちがいるＪＡＦなら安心して愛車を任せられるって、沢山の人たちに知って欲しい。全国キャラバンお願いします」。「よりバイクに優しい方法の模索に感銘」。「勉強になった」などが多くの意見でした。私がビックリしたのは、今回説明して下さったロードサービス部長の飯田さんとレッカー操作していた技術課の齋藤さんのお二人が率先して開発していったという不屈のメイキングストーリーでした。飯田さん、合間にそっと盛り上がっていたのが、いじるのが趣味という愛車やモータースポーツ。バイクの扱いが慣れている齋藤さんに愛車を聞いたら、「ニンジャです」とにっこり。「どんだけクルマお好き？」な方々だからこそ完成したのであろうこのシステム。今後二輪対応のサービス車両は全国に523台。システム導入で対応車両が2・5倍に増えたとのこと。「呼ぼうかどうか悩んでいる時間があったら、さっさと呼んだ方がいいね」という意見もありました。

大満足の参加者15人。お日様も出て、思いがけず暖かい日になりみんなニコニコ♪

もちろん、技術職人ならではの気づきもいっぱい。「運転が上手でない人も多いので、牽引中のバイクにぶつけられる事故を避けるためのリフレクターや点滅灯などが追加されればより安全になるかな？」「感動しました。でも、全ての作り物、改善に終わりなし。今のものに手順の単純化や起きた不都合点をフィードバックして、よりいいものにしていって欲しい」「ライダーのバイク愛凄い人多いので、ウエスはカッコいいものにした方が（笑）」なども。「二輪アタッチメントを囲む会」と命名した今回のイベント。予想以上に盛り上がり、終わって何日経っても「そういえば、あそこさあ」と話題にあがります。救助要請しないことが一番ですが、みんなちょっとしてみたい気がしている様子。本当に楽しかった！ＪＡＦの方々も集まってくれた常連さんたちもお疲れ様でした♪

都市計画の中の街路㉗

ストリート・トポニミー事始め（その3）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

前回は東京23区内の通りの名称を扱った論文をご紹介いたしました。通りの名称の由来を見ると、東京23区内では学校や神社、公園、駅といった施設名称などの人文地理的特性や地名、自然地理的特性を名前に付されたもので全体の70%を占め、前々回お話ししたような元号や出来事に由来するものは数%に過ぎなかった訳ですが、逆に見ますと、なぜこれらの通りでは元号が付されたのでしょうか？東京23区に限らず「元号通り」の名前の由来に少し迫ってみたいと思います。

グーグルマップでさっと調べたところですが、全国には40を超える元号通りがあるようです。その由来には、名称を付した時点で「昔から呼ばれていた」という慣習的な理由も少なからず見受けられますが、判明したもので最も多いものは、やはり道路敷設の時期でした。古いところでは福岡市の明治通り（市道千代今宿線）があり、福岡市にはこの他にも同じ理由で大正通りも昭和通りも見られます（実は福岡市は山口市に次いで元号通りが多いようです）。駅の開業時期に由来した元号通りも見られます。山口市の明治通りは小郡駅（現・新山口駅）の開業（明治33年）、碧南市の大正通りは大浜港駅（現・碧南駅）の開業（大正3年）にちなんで名付けられています。さらに、似たようなところでは、沿道の都市開発が進んだ時期を名称に付した通りも見受けられますが、ここでは福岡市や大分市の昭和通りでは戦災復興土地区画整理事業に由来していることも特徴的なところです。

ここで、明治・大正・昭和・平成・令和という時代区分で元号通りを数えてみると、時代としては15年ながら大正通りの数が全国に11路線と多く見られることが特徴的で（墨田区、武蔵野市、秦野市、佐野市、一宮市、碧南市、白山市、大阪市、山口市、西条市、福岡市・・・この他にもご存じでしたら教えてください！）、このうちの殆どが大正時代に敷設された道路という理由で名前が付されていました。ちなみに、時代区分で見て最も多かったのは（予想通りの）昭和通りで23路線、大正通りはこれに続きます。そして、明治と平成がそれぞれ4路線、令和通りは今のところ山口市に見られるようです（これも最新動向がございましたらご一報ください）。

この大正時代と言えば大正8年。この年に旧都市計画法が交付された訳ですが、大正通りが多いのは、ひょっとしたら、こうした都市計画の動向とも無縁ではないかもしれません。まさに沿道の歴史が通りの名称に刻まれているということでしょう。少し深く調べてみたいと思います。

路地の向こうにはどんな時代が待っているでしょう？（福岡市にて）

ハッと思いました

新年あけましておめでとうございます。

「今年こそは・・」と毎年意気揚々と一年をスタートしているはずでしたが、終わってみると「・・??・・」。

でも、今年こそは・・ネッ。

近年は時々の流行について行けません。あまりにも周期が短くて変化が速すぎて、流行があったことすら気付かない事も多々あります。

ついて行けない悔しさなのか、古い事に思いを巡らす時間が増えている様で、解雇主義でもありませんが、70年代のフォークソングの歌詞が胸に刺さる事が多くなりました。くさい言い方ですが、青春の一ページには間違いのない事。この歳になると、当時は感じなかった感覚で身に染みてきます。

例えば、井上陽水さんの「人生が二度あれば」。歌詞の一部「父は今年二月で六十五・・、母は今年九月で六十四・・」。ただあるがままの出来事ですが、今の我が身の事をつぶやかれている様で・・。

しかし、半世紀の時を過ぎた現在の六十五、六十四は、生活状況も違えば、健康状態も違います。「人生が二度あれば」と考えるよりも、「一度目の人生がまだまだ半ば、止まっていられない」と言ったところじゃないでしょうか。

一度きりの人生を全うする為には、自己管理と気遣い・思いやりが大切です。クルマ社会ではその事が顕著に現れます。運転支援システムはあくまでも万が一の場合の保険の一つ。ドラレコは外部の悪行を記録する為だけではなく、自身の行動記録でもあります。

さて、今年の目標は、前月号で触れた「交通事故はゼロに出来る」を信じて、人の理性が、まともになってくる事を願い、未来志向で過ごしたいと思っています。勿論、クルマの運転は「全集中」です。